

# 1 支援が必要な高齢者

## (1) 避難所で困ること

- 高齢者は基礎体力が低下している場合が多く、手や足腰、視聴覚など複合的に能力が低下している場合がある。
- 体は元気でも、認知症を患い常時見守りが必要な人がいる。
- 軽度の認知症を患っていても、急激な環境の変化で悪化する場合がある。
- 日常であれば問題なく生活できる高齢者でも、動揺して日常生活動作に支障がでる場合がある。
- 地域とのつながりが薄いひとり暮らし高齢者は、孤立することがある。

### ※ 認知症の人にみられる特徴（主な例）

- ・ 何が起きているかや、場所や時間を正しく理解できない。
- ・ 身の回りのことを行うことができなくなる。
- ・ 物事を正確に判断することが難しい。
- ・ 環境の変化を受けやすく、パニック、徘徊や大声などの症状がでる場合がある。

## (2) 必要なもの・体制

- ・【車いす】※ノーパンクタイヤが望ましい
- ・【車いすのメンテナンスキット】・【杖】・【簡易トイレ】・【紙おむつ】
- ・【おしりふき】・【ストロー】・【食事器具（スプーン）】・【簡易ベッド】
- ・【救急キット】・【飲み込みが難しい人へ柔らかいレトルト食品】
- ・【医療機関との連絡体制の構築】
- ・【認知症の人の静養室（長期）】 ⇒ 福祉避難コーナーで対応
- ・【ベッドルーム】 ⇒ 福祉避難コーナーで対応

## (3) 災害直後の対応方法・考え方

### ○ 環境の整備（ハード）

- ・ 移動に必要な物品（杖・車いす）を配布。
- ・ 車いす利用者には、ベッドコーナーで対応する。簡易ベッドがない場合、ビール箱の上にマットをおくなど工夫してベッドをつくる。
- ・ 和式トイレしかない場合は簡易トイレ（洋式）を活用し、車いす利用

者も活用できる場所へ配置する。

#### ○ 対応方法（ソフト）

- ・ 高齢者全般への対応（例）
  - ⇒ 熱中症や脱水症状などの体調の変化には気を付ける。
  - ⇒ 床にものがあったり、ぬれていると転倒の危険性があるので床面の状況を常に注意する。
- ・ 認知症の人への対応（例）
  - ⇒ ざわめきや雑音が多いと不安定になるため、雑音などが少ないところ（奥の場所や静養室・個室など）に居場所を確保するなど、静かな環境を可能な範囲で整える。場所の確保が難しい場合は本人の座る向きを変えて、視界に人ができるだけ入らないようにするなど工夫する。
  - ⇒ 人によっては音・光・広さ・温度・湿度などが強い刺激となる場合があるので注意する。
  - ⇒ 本人の話をゆっくりと聞き、自尊心を傷つけないよう意志を確認

#### （４）必要な専門員（避難生活が長期化する場合）

- ・ ホームヘルパー ・ 介護福祉士 ・ 介護支援専門員
- ・ 社会福祉士 ・ 医療機関関係者 など

#### ☆ 少し気遣って・・・

- ・ 自分でできる身の回りのことは、自分で行ってもらう。
  - ※ できることまで支援すると、自立した生活を阻害することになる。
- ・ 移動が難しい場合は、窓口や出入口、トイレに近い場所を確保する。
- ・ 精神的動揺が激しい場合は静養室を活用する。
- ・ 認知症の人の家族が困っている場合は「気にしないで」「お互い様ですよ」などの一声をかけることで、家族は安心するため、一声かけることにも注意する。
- ・ 必要に応じて見守りや声掛けを支援者が複数で行うことに注意する。